

# 会議記録

令和4年7月11日

- 会議名 丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会  
第6回竹田・前山地域部会
- 日時 令和4年7月8日（金）19:30～21:30
- 場所 ライフピアいちじま
- 出席者 委員：青木修、余田義信、山邊敦、荻野幸広、藤田泰生、溝部康祐、余田  
亜美、足立和宏、吉見典彦、余田淳子  
[事務局]  
教育総務課：足立次長、船越係長、小田、畑中  
学校教育課：谷川副課長  
[担当課]  
子育て支援課：荒木課長、芦田係長  
ふるさと定住促進課：藤浦課長、足立係長

## ●内 容

### 1 「5校→1校」統合について

全体会で各地域部会でも協議を実施することとなった、1校統合について、委員の意見を伺った。

#### 【意見等】

- ・全体会では、個別の統合が忙しくなるので、落ち着くまで1校の協議は難しいのではないかという意見があった。また、個人的にも厳しいと感じており、協議事項として残されると負担に感じる側面もある。
- ・いつかは1校になるということは感じているが、今それを論議すると校舎改修が先延ばしになる可能性があるなど、段階的統合の足かせになっているように感じる。実際のところ、1校統合が早い段階で決まるとも思えないので、現段階では凍結という形がいいと思う。
- ・資料の書き方を見ると、「5校→1校」とあるので、段階的な統合（「5校→2校（3校）」）を否定しているようにも捉えられる。
- 過去の協議の中でこども園の範囲で段階的に統合を実施するということは決定している。また、表現の仕方の問題もあるので、今後の資料では表現方法を検討する。（事務局）
- ・地域の感覚としては1校統合を目指すよりも、「複式を解消するために統合をする」という思いが強いと感じている。
- ・今進めている竹田小学校と前山学校の統合が終わり、落ち着いてから1校統合の話をするべきだと思う。
- ・1校統合の話は今の段階では難しく感じる。三輪小学校の統合が令和12年度を目安で考えられていると聞いたのでそこを基準として再度検討する形を取ってはどうか。
- 三輪小学校の統合をターニングポイントとしても、その時期の児童数を見ると2～3クラスが予想され、その人数が入りきる校舎がない。そのようなことを考えると、ある程度人数が減ってきて複式学級が予想される時点になってから考えるのがいいのではないか。
- ・1校統合をどうするかについては、各校区でしっかり個別に話し合う必要があると思う。

## 【決定事項】

竹田・前山地域部会としては、1校統合の協議については一旦凍結し、段階的統合を実施した後に状況によって協議を再開する方向で検討する。

## 2 統合に向けた今後の協議項目及びスケジュールについて

事務局より、令和6年4月の統合に向けたスケジュール案の提案を行った。

### 【意見等】

- ・スケジュールにある「決定」は部会での決定、全体会での決定のどちらか。
- 全体会での決定を想定しているため、部会の決定は記載されている時期より早く決定する必要がある。(事務局)

## 3 統合後の通学支援について

竹田小学校と前山小学校の統合については、路線バスの活用も検討されており、現時点での想定されているバスの経路やダイヤについて、担当のふるさと定住促進課より説明を行い、委員の意見を伺った。

### 【意見等】

- ・竹田小学校区の児童も乗車はできるのか。
- 運賃を払えば乗車はできるが、前山小学校区児童の統合後の通学支援を想定しているため、竹田小学校区の児童については補助等で費用を市や教育委員会が負担することは予定していない。(ふるさと定住促進課・事務局)
- 現在、安下あたりの通学ではガードレール等が何もない場所を児童が通学している。安全面なども論理的に考えて、竹田小学校区の児童も乗車できないか検討してほしい。
- ・路線バスの運行はまちの発展についてはとてもいいことだと思うが、児童以外の一般の方も乗車するため、安全面の不安もある。都会にある私立学校では路線バスで通学する児童もいるが、地元住民はそのイメージがわからないので路線バスが全てにおいて好意的に受け入れられるかは疑問が残る。
- ・左右で路肩の広さが違うバス停もあるので、安全性についても今後検討してほしい。
- ・高校生の利用も可能なのか。
- 丹波竹田駅に停車するので利用は可能であるが、小学校の通学に合わせたバスダイヤであるため、高校生の通学時間帯に合わない可能性が高い。(ふるさと定住促進課)
- ・路線バスの運行はどこが行うのか。
- 神姫グリーンバスの予定である。(ふるさと定住促進課)
- ・その他の公共交通機関との調整はできているのか。
- 各公共交通の事業者とは事前に調整は実施している。(ふるさと定住促進課)
- ・ICカード以外の現金でも利用できるのか。
- 現金の支払いも可能である。また、実際に通学する際は、児童にICカードを配布する予定である。(ふるさと定住促進課)
- ・徳尾や鴨阪にバス停を設けることはできないのか。
- 実際に現地確認も行ったが、転回する場所が必要となり、難しいと考えている。(ふるさと定住促進課)
- ・バス通学になることで児童の体力低下を心配している。
- ・専用スクールバスとのメリット・デメリットの比較なども説明をしてほしい。例えば立席のため、急ブレーキの際の安全性などに不安がある。
- ・路線バスを実際に運行するまでに要する期間はどの程度必要か。
- スケジュール表にあるように、遅くとも年内に決定いただかないと令和6年4月の開校に間に合わない。また、新規路線となるため、地域公共交通活性化協議会にも諮る予定としている。(ふるさと定住促進課)

- ・急な大雨などの場合にも対応はしていただけるのか。専用スクールバスのほうが融通が付きやすいイメージがある。
- 大雨の場合等は臨時便で対応する予定である。(ふるさと定住促進課)
- ・学校側としても公共交通で通学しているところをイメージできていないのが現実であるため、安全性の検討や説明等をしっかりと行ってほしい。
- 通学に使用するというのを念頭に置いてバス会社と安全性の確保について協議をしていきたいと考えている。(ふるさと定住促進課)
- ・土日祝日の運行がないとのことだが、参観日等は臨時便の運行があるのか。
- 臨時便の対応を考えている。(ふるさと定住促進課)
- ・路線バスとなった際の運賃の各家庭の負担はあるのか。
- 全額補助とすることを予定している。(事務局)
- ・スクールバスとの比較について教育委員会と調整をし、次回以降説明を行っていきたいと考えている。(ふるさと定住促進課)

#### 4 統合後のアフタースクールの在り方について

統合後のアフタースクールの在り方について、担当の子育て支援課から説明を行い、委員の意見を伺った。

##### 【意見等】

- ・アフタースクールについては、この統合準備委員会の場よりも実際に利用している保護者に意見を聞くべきではないか。
- 保護者の意見については不安がないように安全に配慮した形で運営をいっていきたいと考えている。鴨庄小学校の統合においては個別に PTA の会議に参加し意見を伺う機会を設けた。そういった機会も利用して意見を伺えたらと考えている。(子育て支援課)
- ・これまでと同様に竹田と前山の両方でアフタースクールを実施することは不可能なのか。
- 市の方針としては1校区につき、1ヵ所のアフタースクールという方針で実施をしている学校統合があっても基本的には同様と考えている。(子育て支援課)
- ・路線バスで通学することとなった場合に、最寄りのバス停から小学校までの定期を使用することになるので、アフタースクールまでの送迎については考える必要がある。(事務局)

#### 5 校名・校歌・校章について

統合後の校名・校歌・校章について、事務局より市内のこれまでの統合の際の事例について説明をし、委員の意見を伺った。

##### 【意見等】

- ・市島中学校に統合する前に竹田地域と前山地域の生徒が通学していた「竹山中学校」の校歌歌詞を持ってきた。保護者世代の若い委員とは感覚が少し違うかもしれないが、年配の地域の方には「竹山小学校」になることについて説明はしやすいし、理解はしてくれると考えている。
- ・全体会で意見が出た、「市島第1小学校」「市島第2小学校」などの校名はどうか。
- その場合は吉見・鴨庄・三輪地域部会との調整も必要となる。1校統合にも影響が出る。
- ・最終的に1校になると思っていたので、その場合は「竹田小学校」でいいと思っていたが、1校統合の話が凍結となりそうなので、もう一度考えたいと思う。また、1校統合の協議が再開される時期にも影響される。
- ・竹田・前山統合小学校(通称「竹山小学校」)のような形をとれば、卒業証書には両校の校名を残すことができる。
- ・校歌について、1番は竹田小学校のものを歌い、2番は前山小学校のものを歌うという形もよいのではないかと。

## 6 その他

- ・次回以降日程 ○令和4年7月26日(火) 19時30分～  
ライフピアいちじま